横鎮第八〇の第一三

昭和二年三月三日

横須賀鎮守府司令長官

海軍大臣殿

海軍軍隼ノ實驗研究ニ關スル件

大正十五年三月二日横鎮第一〇七號ノ八上申海軍軍隼實驗研究計畫中左ノ通變更致度候條御認許相成度

右上申ス

記

一、第三艦隊軍隼ヲ創育シ實驗研究ヲ行フ所轄廳中ニ霞ヶ浦海軍航空隊ヲ加フ

海軍

2 軍務局
3 軍務局
4 局

軍務局

1451

官房第四〇一號

軍務局

横鎮第〇七號

大正十五年十一月八日

横須賀鎮守府參謀長

海軍省軍務局長殿

海軍軍隊ノ實驗研究ニ關スル件

本年三月二日横鎮第一〇八號ノ七上申官房第四一號ノ四ヲ以テ認許相成候首題ノ件中十六年度ハ實驗研究ヲ行フ所轄ヲ左ノ通變更セラルル豫定ニ有之候

右通知ス

左記

軍艦迅鯨ヲ除キ吳防備隊及鎮海防備隊ヲ加フ

（終）

軍務第〇號

1452

軍務局

軍務局

1453

横鎮第六〇號ノ八

昭和二年六月二十日

横須賀鎮守府司令長官

海軍大臣殿

海軍軍鳩ノ實驗研究ニ關スル件

大正十五年十月二日横鎮第一〇七號ノ八上申海軍軍鳩實驗研究計畫中左ノ通變更致度候條御認許相成度

右上申ス

記

一、第三項、軍鳩ヲ飼育シ實驗研究ヲ行フ所轄廳中ニ大湊防備隊、馬公防備隊ヲ加フ

（終）

海軍

符箋紙

昭和

本年度ニ配ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

軍

[redacted]

究計畫中

隊、馬公

（終）

符箋紙

昭和　年　月　日

海軍航空本部總務部

本年度限リニテモ全能発揮上許可アリ度シ配付予算内ニテ都合スヘシトノ横鎮ノ希望アリタルニツキ認許スルコトニセリ

1454

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

書類綴

大正二年六月三十三日起案　起案者捺印（松永）

昭和弐年六月弐拾七日　発付後起案者捺印（後藤）

主務局、部取扱者捺印（所長）

取扱指定

1455

3/

（提案）

大臣

次官

副官

書記官

軍務局長

第一課長

第二課長

局員

総務部長

部員（松永）

局、部受月日　発月日

官房　文書普

軍務　六・七

人事

教育

軍需

醫務

經理

建築

法務

艦政

軍令

昭和二年六月三十日

大臣

横鎮第六〇號ノ八海軍軍鳩實驗研究計畫中變更ノ件認許ス

（終）

番號　三一七九号

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

官房第六四八號

昭和三年二月二十四日　　海軍省副官

横鎮參謀長宛

海軍軍鳩ノ實驗研究ニ關スル件

大正十五年一月官房第四一號訓令首題ノ件中左ノ通訂正相成候

右依命通牒ス

記

第五項ニ左ノ通追加ス

昭和三年度ハ艦營需品五、〇〇〇圓　雜費二、二〇〇圓　旅費一、四〇〇圓以内請求ヲ俟テ配付ス

第六項　期間ヲ左ノ通改ム

昭和三年度ニ終ル

（終）

本件通牒先　聯合艦隊、吳佐鎮守府、各要港部參謀長

海軍

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

起案罫紙

1457

大正十五年十二月三日起案 起案者捺印 大正十五年十二月指令日 発付後起案者捺印

（主務）軍務局長 第一課長

大臣 次官 副官 参事官 局員

人事局長 教育局長 軍需局長 第一課長 第二課長 第一班

軍令部 次長 第一班

局部	官房	旅務	人事	艦政	軍需	醫務	經理	法務	技本	造兵	教育	臨建	水路	軍令
受月日				15.12.4										
發月日														

大正十五年十二月十四日 大臣

横鎮第一〇七號ノ二〇海軍軍鳩實驗研究計画中變更ノ件認許ス

番號 官房第12号 號

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

軍務局

1458

官房第四一號ノ3

横鎮第一〇七號ノ二〇

大正十五年十一月三十日

横須賀鎮守府司令長官

海軍大臣殿

第一課

海軍軍鳩ノ實驗研究ニ關スル件

本年三月二日横鎮第一〇七號ノ八上申海軍軍鳩實驗研究計畫中左ノ通變更致度候條御認許相成度

右上申ス

左記

第三項　軍鳩ヲ飼育シ實驗研究ヲ行フ所轄聽中軍艦迅鯨ヲ除キ吳防備隊及鎮海防備隊ヲ加フ

（終）

海軍

官房第四一號ノ3

12.2

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

3、

1459

軍務局

十二月十三日 通達

横空第四八號 ノ三ノ一四

大正十五年十二月十三日

海軍大臣財部彪殿

海軍航空廠長市川大治郎

一、海軍航空實驗研究報告

但シ大正十五年一月官房第四一號訓令ニ依ルモノ

右提出ス

一、別紙三通添

（終）

参謀

副官

海軍

軍

横空

15.12.14

官房受

15.12.16

第2部

第6課

軍務局

1460

平送付先

佐鎮、呉鎮、舞鶴、大湊、鎮海、馬公要港部、第一、第二艦隊司令部

遣外艦隊、第一、第二潜水戰隊司令部、霞浦、佐世保、大村航空隊、横須賀、佐世保、大湊、鎮海、馬公、舞鶴防備隊、能登呂

潜水学校、兵学校、軍務局、教育局、軍令部、軍需局、経理局、人事局

海軍々隼實驗研究報告　横須賀海軍航空隊

一、實施經過

大正十五年一月發付官房第四一號訓令ニ基キ横鎮第一四七號ノ二海軍々隼實驗研究計畫ニ依リ本年三月十八日以降實施中ニシテ今日迄ノ概況左ノ如シ

軍隼飼育所轄官	隼種(訓練別)並ニ飼育隼數	全上合計隼數	從事員	隼舎需品經費	記事
横須賀航空隊	晝間隼 二五		大尉 一 特少 一 下士官兵 四	一、隼舎建築物 二、夜戦隼舎 五、分解隼舎 六、移動隼舎(分解式) 一、正規ノ手續ニ依リ経費需品ノ供給ヲ受ク	横空ノミニ対シ海軍々隼用ノ需品ハ額表ノ制定セラレ故ニ他所轄ニ対シ本年八月以降得ル限リ備品ヲ整備シ消耗品ヲ供給シツツアリ
	夜間隼 五	三三			
	移動隼 三				
霞ヶ浦航空隊	晝間隼 二	二	兵 二	分解隼舎 一、需品金部横空ニ依ル	本年四月新設セラレタルヲ以テ未タ隼舎需品ノ不備ナルモノ多ク大半年度ニ成ル得ル限リ充実スル豫定
大村航空隊	晝間隼 三五	三五	大尉(兼) 一 下士官兵 二	夜戦隼舎 一、横空ヨリ貸与ノ備品ヲ受ク	

軍艦巡洋艦	艦一隻 七〇	少佐一 下士兵三	分配過金 二	本年二月末日ヲ以テ巡艦[illegible]消耗品手当	実験終完ヲ終了ス
特務艦 能登呂	艦上艦 六五 (豊南後新造)	六五 兵二	出張費一	艦令搭載位置(艦尾)不適当	特務消耗品ヲ算出シ剣須費ヲ配付スベキ	他必要ナル備品消耗品ハ横須賀ヨリ供給ス
横須賀防備隊	豊南艦 二五	四五	大尉兼一 下士兵三	分配過金 二	備品消耗品全部ヲ横須賀ヨリ供給ス
舞鶴防備隊	豊南艦 四五	四五	大尉兼一 特必兼一 兵二	分配過金 三	消耗品(剣類)手当
佐世保防備隊	豊南艦 三五	三五 兵二	大尉兼一 特必兼一	分配過金 一	消耗品(剣類)手当ノ配付アリ其ノ他必要ナル消耗品ヲ横須賀ヨリ供給ス
呉防備隊	豊南艦 四〇	四〇	/		要ナル消耗品ヲ横須賀ヨリ供給ス
鎮海防備隊	豊南艦 一八	一八	特必兼一 兵五	分配過金 六	備品消耗品ヲ横須賀ヨリ供給スル予定
横須賀防備隊	豊南艦 一八	一八	特必兼一 兵五	分配過金 一	同右

右表ノ外大湊防備隊ニテ約一五万円憲兵防備隊ニテ約

大正十五年春中旬ヨリ開始ノ予定

大正十六年度ヨリ予算ヲ命令ス

実施ノ現状ニヨリ大正十五年春ヨリ創育所職人指導ヲ[illegible]大正十六年度ヨリ[illegible]ヲ分割ス

大正十六年度必要ナル備品ヲ横須賀ヨリ貸與スル予定

大正十六年度ヨリ改善ス

以上

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

六、各飼育廠ニ於ケル軍鳩使用ノ現況並軍鳩員ノ技能程度

所轄名	軍鳩使用ノ現況	軍鳩員ノ技能程度
横須賀航空隊	(イ)保安通信用トシテ飛行機ニ搭載 (ロ)自由氣球演習ニ於テ富士及着陸地ヨリノ通信 (ハ)遭難飛行機救助作業報告(海上陸上) (ニ)派遣艦艇ヨリノ通信(空襲艦艇報告ヨリ) (ホ)演習時等ニ於ケル航空基地ヨリノ諸通信	日本海軍唯一ノ軍鳩研究基礎機関トシテ極力軍鳩員ノ養成教育ニ努力シツツアリ定員其ノ他ノ関係ニテ充分ニ練成セラレタル軍鳩員ヲ保有スル能ハス目下軍鳩員十名ノ中掌鳩兵ノ知識技能ヲ有スル者五名他五名ハ見習修業中ノモノナリ
空隊	(ヘ)隊外派遣人員ヨリノ諸通信 (ト)尚横空隊鳩舎ハ横鎮トシテモ大ニ利用シ基本演習等ニ於テハ駆逐隊潜水隊陸軍部隊方面隊外所等ヨリノ通信ニ或ハ横鎮聯合	

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

	艦載水雷艇カ少シ巡航ニ於テハ電報ノ代リニ又港務部艇艇ノ海上作業報告等各種ノ場合ニ利用セラレツツアリ	
霞浦航空隊	航空艇隊ニ於テ自由気球並航空艇ヨリノ諸通信	軍隼員二名中一名ハ横須賀隊ニ於テ充分ニ教育訓練シタル掌隼兵ナルヲ以テ航空艇隊ニ於テ隼舎編成後僅ニ三月ナルニ六十粁圏内ヨリノ実用通信ニ成功セリツツアリ
大村航空隊	(イ)佐鎮基本演習ニ於テ平戸(三九粁)ヨリ実用通信 (ロ)小演習時飛行機ニ保安用トシテ搭載本年五月新設シ基礎的訓練ヲ為スノミナレトモ能ク実用ニ供シ得ル程度ニ至ラス	軍隼員二名中一名ハ全然未経験他ノ一名ハ横空隊ニ於テ短期間ノ講習ヲ受ケタルノミナレハ知識技能未熟ナリ
横須賀防備隊	(イ)帰港艦設機雷処分等ノ為頻繁出動スル所属特務艇艇雑役艇(概ネ無線ヲ有セス)ヨリ作業報告 (ロ)水陸防衛両方面ヨリノ諸通信 (ハ)所属艇艇巡航先ヨリノ諸通信 (ニ)隊外派遣艇艇人員等ヨリノ諸通信 (ホ)演習時ハ右記ノ外哨艇艇派遣所備隊員ヨリノ戦務通信	横須賀防備隊軍隼員ニ大正九年研入教育ヲ受ケ軍隼術ノ講習ヲ受ケタル下士官一名アリ其ノ他各防備隊ニ名宛ノ軍隼員(兵)ハ何等ノ教育ヲ受ケタルコトナク所謂兵ノ頭脳ニテ自己流ニ訓練ヲ行ヒツツアルヲ以テ成績良好トハ称シ難シ横空隊ニ於テ講習スルノ必要アルヲ痛感シツツアリ
	(イ)潜水艦ヨリ母艦(諸種ノ行動作業報告) (ロ)教練発射ニ於テ魚雷航跡標識	軍隼員三名中一名ハ横空隊ニ於テ教育訓練シタルモノナリ之ト下士官(隼舎長)兵六

軍艦迅鯨	特能	搭載艦名	備
送流失標的役捜索報告（無線電信ニテ軍艦通信ニ依リ）其ノ目的艦ヲ指導ノ下ニ能ク業務ヲ遂行スルヲ得タリ 側方記録及弾痕測輸送等ノ場合有効ニ使用セラレタリ (ハ)夜間作業地ニ於テ戰斗通信ノ間艦隊旗艦及補助通信機ニ軍艦ヲ配付シ無線輻湊緩和並補用到用トシテ大ニ有効ナリキ (ニ)小浜ニ艦隊逗泊則間陸上ヲ軍艦通信所ヲ設ケ艦隊ノ陸海通信用トシテ極メテ簡便ニ使用セラル(ホ)演習時ニハ有効ニ使用セラルル機会ナカリキ	全然未経験ノモノナリシモ善ク小艦ノ教官指導ノ下ニ能ク業務ヲ遂行スルヲ得タリ 軍艦員二名中一名ハ相當ノ知識技能ヲ有スレトモ上記ノ関係等充分ニ其技倆ヲ発揮スル能ハサリキ他ノ一名ハ全然未経験者ナレハ更ニ教育講習ヲ要ス	鳩舎搭載後選ノ適當ナラサリシト定置不定ナル為軍艦間ヲ一時他ノ役員ニ流用セサルヘカラサル如キ実状ニアリ当分訓練ノ効果ヲ挙ル能ハサリシト雖モ大体(イ)仮泊実用ニ供セリ (ロ)仮泊ノ際ニ於テ陸上基地ト母艦トノ電信通信 (ハ)保安通信用トシテ飛行機ノ搭載	右記各艦隊艦船ニ於ケル軍艦使用ノ状況ハ其ノ特殊顕著ナリシモノ或ハ一般共ノ通例ナルモノヲ列挙シ以テ其ノ概要ヲ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

考

摘記セルモノナリ

三、所見

(一)海軍ニ於ケル軍鳩ノ用途ニ就テ

過去数年ニ亘ル軍鳩実験研究ノ結果ト他種通信機関ノ現狀等ヲ考フル時ハ軍鳩ハ地防備部隊ニ於テ最モ利用スル機會多ク且ツ有効ナリ

而シテ防備部隊ニ軍鳩ヲ所有スルコトノ有効ナルハ近ノ本年九月横須賀第二回基本演習ニ於テ具ニ実験シタル所ニヨリ當時指揮官カ軍鳩ヲ使用シテ麾下ノ水上哨艦艇及駆逐艦潜水艦ヨリノ諸報告ニ又陸軍友隊ヨリノ諸通信ニ又他機ノ保安並補助通信用トシテ其ノ効果極メテ大ナリシコトハ其ノ演習講評ノ一項ニ軍鳩通信ハ應急又ハ補助通信用トシテ其ノ價値大ナリシモノト認ム之ニ鑑ミ能ク整備セラレタル

モノト云フヘシ

各種艦船ニ艦上鳩（海上移動性）ヲ有スル時ハ之ヲ利用シ得ル機會多々アルヘキハ過去ニ於ケル実験ノ證明スル所ナレトモ鳩ノ天性飼育訓練ノ難易及之ニ要スル設備等ノ關係上陸上固定鳩舎カ最モ簡便而モ能率大ニシテ艦上鳩舎ハ聊カ勞多クシテ功尠ナキカノ感ナクンハアラス傳書鳩ノ先進國タル佛蘭西白耳義等ニ於テモ艦上鳩ニ關シ關知スル所甚タ又米國海軍ニ於テハ主トシテ沿岸防備部隊（防備隊航空隊）ニ於テノミ軍鳩ヲ有スルハ如上ノ關係ニアラサルカト想像セラルルナリ

尚艦上鳩ニ關シ未実験ノ事ニ屬スルモ陸上トノ交渉多カルヘキ揚子江方面ノ軍艦ニ軍鳩ヲ有スルトキハ其ノ任務遂行上便利大ナル機會多カルヘキハ信ニ疑ハサル所ナリ因ニ

本件ニ関シテハ頃日遣外艦隊利根艦長ヨリ軍鳩設備希望ノ意見ヲ寄セラレタリ

(二)

軍鳩ノ実用ニ就テ

目下我海軍ニ於ケル軍鳩ノ実験研究ハ其ノ基礎的研究ヲ完了シ実用ノ域ニ入ルベキ時期ニ到達セリ即チ過去数年ノ研究ニ依リ鳩及其ノ飼育訓練法鳩舎並器材需品等ニ関シテハ既ニ具体的成案ヲ得タリ(大正十五年度末提出軍鳩研究報告記載)今日残サレタル問題トシテハ如何ニシテ之ヲ適切ニ実用ニ供スベキカト云フ事ノミニシテ大正十六年度ニ於テハ一先ツ実験研究ノ形式ヲ終了シ大正十七年度ヨリ之カ実用ニ移ルニ当リテハ之カ制度組織ヲ樹立セサルベカラス 単ニ現状ノ儘ニテ推移セシカ今日ヨリ以上ニ進歩向上スル能ハサルコト明ナリ 今日軍鳩実用上

最モ重要ナル件ハ掌鳩兵ノ養成ナリ此ノ掌鳩兵ヲ養成教育シ得ル制度組織ヲ樹立セスシテ軍鳩通信ノ進歩向上ヲ望ムハ不可能ノコトナリ傳書鳩独特ノ稟性モ人ヲ待テ始メテ其ノ霊力ヲ發揚シ得ルモノナルハナリ

先之ヲ方策トシテハ各鎮守府ヨリ必要ナル員数ノ掌鳩兵タルヘキモノヲ選出シ横須賀航空隊ニ於テ約六ヶ月間鳩講習ヲ行フヲ適當ト認ム

軍鳩実用上切ニ考慮スヘキ件ハ鳩ノ問題ニアラス器材需品ノ問題ニアラス唯鳩ノ製造者タリシカ飼育訓練者タル掌鳩兵ヲ養成教育シ得ル道ヲ講スルコトノ最モ重要ナルヲ高唱セントスルモノナリ

(終)

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/